

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602470
法人名	有限会社Kふあみりい
事業所名	グループホームみどりのうた
所在地	福岡県久留米市東櫛原町1647-6
自己評価作成日	平成29年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成29年3月3日	評価結果確定日	平成29年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>主治医を変えず、日常の健康管理と医療連携を行っています。小規模併設により利用者の多様なニーズに柔軟に長期に渡り対応し、また看取りまでのご利用も可能で、食事制限(糖尿・腎臓・心臓病)のある方も積極的に受け入れをしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して12年目を迎える「グループホームみどりのうた」は、小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、運営推進会議や災害対策、地域交流等にて連携を図っている。運営推進会議には、家族や自治会長、民生委員、子ども会会長、市役所、地域包括支援センター、地域消防団等の参加を得ており、事業所の実状を理解してもらい、開かれた事業運営に努めている。また、併設施設と共に地域へ場所(子ども会会議)や敷地(子供神輿)を提供し、利用者と共に参加する地域の清掃活動、盛況に開催された熊本地震チャリティーコンサート等、地域との交流や活動を重ねている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の打ち合わせの中で、スタッフ間で理念を再確認しあって、常に理念を意識したケアを実践している。	開設時に作成された地域密着型サービスとしての理念は、目に付きやすい場所への掲示や毎朝の申し送り時の唱和を通じて共有を図っている。また、年間研修計画の中に位置付け、日々の実践について振り返る機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子ども会のみこしの休憩場や会議などに施設を開放している。	自治会に加入し、回覧板を通じて地域情報を共有している。子ども会の会議や子供神輿の巡行の際には、併設施設と共に場所や敷地を提供し、利用者と共に参加する地域の清掃活動、盛況に開催された熊本地震チャリティーコンサート等、地域との交流や活動を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員等を通じて、地域の介護相談窓口としての機能を告知する事で、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催して、事業所の運営状況についての報告を行い、また参加者との積極的な意見交換を行う事で、サービス向上にいかしている。	併設する小規模多機能型事業所との合同開催となり、複数の家族代表、自治会長、民生委員、子ども会会長、市役所、地域包括支援センター、地域消防団等の参加を得ている。家族の提案により、ヒヤリハットをもとにした改善計画について話し合いが行われたり、地域包括支援センターより、権利擁護制度に関する情報提供が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護福祉サービス事業者協議会での活動などを通じて、市担当者との意見交換を行い、協力関係の構築に取り組んでいる。	運営推進会議や介護福祉サービス事業者協議会(GH部会)等を通じて、行政や地域包括支援センター担当者との情報共有を図り、困難事例への対応に関する協議や、制度に関する情報提供を頂き、顔の見える関係性の中で協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を通じて、職員全員が身体拘束について十分に理解しており、身体拘束は行わない介護を実践している。	身体拘束に関する研修時には職員全員がレポートを提出し、効果的に理解や意識を高めるよう取り組んでいる。言葉や対応による抑制についても、随時指導指導を行いながら、身体拘束をしないケアの実践に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通じて、職員全員が虐待防止について十分に理解しており、職員間で注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内、社外研修に参加することで成年後見制度についての見識を深めている。	運営推進会議の中で、地域包括支援センター担当者より、資料を基に情報提供が行われている。また、必要性の検討や活用に向けた支援を行う中で身近な制度としてとらえ、関係者との連携に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に、施設方針、料金体系等について十分な説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問の解消に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会等の機会を捉えて、家族と積極的な意見交換を行い、寄せられた意見に対して、迅速に協議して対応するよう努めている。	家族等の来訪する機会も多く、運営推進会議の開催を全家族に案内している。行事やイベント等を家族にも案内し、コミュニケーションを深めるように努めている。	事業所通信の発行等による情報発信や家族アンケートの実施等、更なる取り組みが期待されます。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員が参加する会議やユニット会議その他職員が集まる機会に自由な意見を発言できる時間を作りその意見等を運営に反映するように努めている。	毎朝の申し送りや随時の会議、連絡帳の活用等を通じて、情報共有に努めている。今後は定期的な会議開催を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度の見直し特に、(介護プロフェッショナルキャリアや段位制度)の導入により昇進、昇給などの評価基準を明確にした。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたって国籍、性別、年齢などの基準は廃止し意欲と人柄を重視している。	職員の採用にあたり、年齢や性別、国籍等による排除は行われていない。介護プロフェッショナルキャリア段位制度の活用も視野に入れ、知識と実践的スキルの向上に取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内、社外での人権についての研修に積極的に参加するよう努めている。	基本的人権や高齢者虐待防止、身体拘束等の研修機会の確保やレポート提出等を通じて、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修への積極的参加を促し社内では、介護プロフェッショナルキャリアや段位の段位取得を推進している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会に所属し、交流会、研修会の参加を通じてサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や無料体験を利用頂くことにより施設と利用者の距離を配慮しています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や無料体験を利用頂くことにより安心していただけるようにしています。また入所時においては、家族、本人の要望を優先し対応するようにしています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず本人と家族のアセスメントをし、求められる介護を将来に及び提供できるか説明し、他の施設、他のサービスも紹介するように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人主導のもと残存機能の維持と生活の質の向上に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新たなる家族との関係を結ぶ為のケアを実践をしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設行事ばかりにとらわれず 個人行事 (なじみの美容室、友人宅、店、お寺、)など途切れた関係の修復を行っています。	馴染みの美容室を利用する際には送迎のみ支援し、美容室で過ごしてもらったり、家族や友人の来訪とともに歓迎し、関係性の継続を支援している。個別の地域性も考慮した外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る場所も小さな社会と捉えて、お風呂の順番など些細なことでも少人数から多人数の時まで配慮しながら生活しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も施設行事や運営推進会議などへの参加を呼びかけたり、相談を受けたり、ご自身の介護体験や思いをお話いただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定を最優先とした介護に努めまた困難であっても少しでも妥協点を高くしようとしています。	日々の記録の中には、言葉や行動、心情の変化等が残され、職員間で共有し、思いや意向の把握に努めている。センター方式の活用に向けて取り組みを始めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族の心身や環境の変化などを考慮しながらアセスメントを常に見直す事が必要と考える。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック時や入浴、レクリエーション、生活リハビリなどの時、本人の表情・動作・会話の中で状態の把握をするようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・主治医・施設・介護者などのチームでの情報の共通化と共有化を図り介護計画(チームケア)を心がけています。	本人、家族の意向を踏まえ、関係者の意見も参考にしながら、介護計画を作成するよう努めている。センター方式の一部活用にも取り組み、本人や家族の役割を盛り込んでいる。毎月、計画作成担当者によるモニタリングが実施されている。	アセスメントやモニタリングに職員が関わりを持つことで、支援の方向性を共有し、計画に基づいた支援や根拠のある実践に結び付けていくことが期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録だけでは状態把握ができない時には、センター方式を活用し問題にフォーカスするよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設する小規模多機能型ホームの(人と物を)有効活用することによって、多様なニーズに柔軟に対応しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや敬老会への参加や施設との結びつきの強い行事(子ども会の子供みこし)(チャリティーコンサート)(年末の餅つき)などの地域交流に積極的に参加している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を優先しかかりつけ医を変えることなく受診支援を行っている。	本人や家族の希望によるこれまでのかかりつけ医を尊重し、受診や訪問診療を支援している。必要や状況に応じて、家族に同行を求め、情報共有を図っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の介護より得られた心身の情報を専門職(看護師、主治医)に連絡し状態報告をし適切な受診と治療を受けれるよう努めています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のカンファレンスに家族と参加し退院までの情報共有と本人の見舞いをしています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえた上で主治医、訪問看護等との連携を図りながら看取り支援に積極的に取り組んでいます。	入居契約時に、重度化した場合における対応に係る指針をもとに説明を行い、同意を得ている。状況の変化に伴い、都度の意向確認や関係者との協議を行い、方針の共有に努めている。運営推進会議の中で、看取り後の家族より感謝の思いが述べられた経緯もあった。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えたマニュアル等を職員に配布し不定期であるが訓練を実施し研修へも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議に参加していただいている消防団との情報共有や年2回災害訓練を実施している。	火災や地震、風水害に対応するマニュアルを整備し、年2回、消防署の指導のもと避難訓練を実施している。運営推進会議の中で、地域消防団より情報提供を受ける機会もある。自家発電機が準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本動作の徹底と職員間で指摘しあう事により是正する。	排泄ケアや入浴時の対応、更衣等の際には特に留意し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。個別の生活習慣や時間の流れを尊重するよう努め、プライバシー空間としての居室の位置付け等に配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助の内容に理解が得られたか確認し選択肢を持たせるよう心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴時間等利用者の意向によってサービス提供をするよう心がけていてほぼ希望に沿うようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診や外出の時に化粧やおしゃれに気お使い本人と一緒に支度を。また行きつけの美容室や訪問美容などを利用している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食事を調理師に作ってもらい同じものを利用者とテーブルなどで食事をする。	法人厨房にて調理され、利用者の方々と共に食卓を囲み、職員も同じ食事を食している。嗜好やバランス、季節感等に配慮し、残食や感想を聞き取りながら、細やかな工夫や配慮に努めている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	腎臓、肝臓、心臓、糖尿病にも対応した食事の提供と確実に食べてもらうよう工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の指導を受けながら、個々の利用者の口腔状態に合わせた口腔ケアを実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して、本人の排泄パターンの把握に努め、適切な誘導などで自立に向け対応をしている。	排泄チェック表による個別の状況把握に努め、必要時にはさらに細かく情報を収集し、個別のパターンやニーズの把握に努めている。食材や飲み物の工夫、適度な運動等により便秘予防に努め、自然な排便への働きかけに努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事や睡眠など生活のリズムの管理と適度な運動を管理するようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間・曜日にはとらわれず本人の体調と意思にそった支援また入浴場所は小規模の入浴療法も活用している。	毎日入浴準備を行い、週に3回程度は入浴できるよう、希望や体調、状況等に応じて柔軟な対応に努めている。また、無理強いとにならないよう、声掛けや対応を工夫している。必要に応じて職員2名での介助を行い、ゆっくりと湯船に浸かってもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や消灯時間を定めておらず、本人の生活リズムを尊重しお昼寝やうたた寝も必要な時間として支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局との連携で複数病院の処方での薬の重複や飲み合わせなどそれぞれの医師との連絡を取り調整をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の継続(ゲーム・散歩など)や施設内での軽作業に参加できるよう工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を出来るだけ反映し途切れたなじみの関係を繋ぎなおしたり、継続する事を支援している。	短時間から1時間程度まで、個別のコースを設定し、日常的に散歩に出かけている。できる限り、個別の地域性や馴染みの関係性、目的や意向にあわせた外出支援に努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援などで会計をしてもらうようにしている。また買い物等で支払いをもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の意向を確認し電話や郵便の取次ぎをしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、季節の花を飾ったりと季節感を大事にして華美や幼稚な装飾は避けている。	総合スポーツセンターや鳥類センターに隣接し、周辺は緑の木々が多い。敷地内は季節の花や薔薇が育てられ、地域を招いて薔薇フェスタも開催されている。室内空間は過度な装飾は行わず、普通の家庭同様の生活感を大切にしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家族、友人の来所時や施設内の利用者同士でくつろげる場所が整備されている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は施設の意向が働く場所と考えていない宗教、政治も自由である。	箆笥や鏡台、仏壇等が持ち込まれている居室もあり、それぞれに雰囲気は異なる。畳を敷き、和式の生活環境を整えている居室もあり、生活習慣やリスク軽減に配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の目印やトイレの表記など工夫をし安全で自立した生活を遅れるよう配慮している。		